

平成 23 年 4 月
八戸市（青森県）

・平成 22 年度フォローアップ結果のポイント

計画期間：平成 20 年 7 月～平成 25 年 3 月（4 年 9 月）

1. 概況

平成 20 年 7 月の認定から 3 年目を迎えた当市の中心市街地活性化基本計画は、平成 21 年 6 月に 4 事業を、平成 22 年 7 月に 1 事業を追加する計画変更の認定を受け、計 47 事業を展開しているところである。このうち、9 事業が完了、ソフト事業など 27 事業が実施中、工事など 6 事業が着手中、5 事業が未着手である。

中心市街地の状況として、小売業が集積する三日町に市が建設を進めていた（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設が八戸ポータルミュージアム（愛称：「はっち」。以下「はっち」という。）として 2 月に開館した。また、商店街が中心となり実施している「はちのへホコテン事業」「市日はちのへ楽市楽座事業」が、ともに来街者から好評を博しており、ハード・ソフト両面から、まちなかに日常的な賑わいを創出する取組みが進んでいる。

基本計画掲載事業は、一部についてはスケジュールに遅れがあるものの、全体的に概ね順調に進捗している。しかし、大型のハード事業の効果が今後発現するものであるとともに、経済状況悪化等の影響から、活性化の効果が見えにくいのが現状である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
来街者を増やす	歩行者通行量	39,121 人 (H19)	45,500 人 (H24)	22,486 人 (H22)		
定住を促進する	居住人口	4,635 人 (H19)	4,800 人 (H24)	4,476 人 (H22)		

注）取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

(1) 歩行者通行量について

「はっち」は、当初の予定より遅れたものの、2 月に事業完了し、開館後連日多くの市民や観光客が訪れるなど、中心市街地の交流拠点として事業効果が発現している。また、「はちのへホコテン事業」や「市日はちのへ楽市楽座事業」など商店街等によるソフト事業も着実に実施されている。しかし、経済状況の悪化等の影響により、依然として歩行者通行量の減少に歯止めがかからない状況が続いているうえに、東日本大震災の影響もあり目標の達成は困難な状況である。

(2) 居住人口について

定住を促進する施策のうち、「分譲マンション新築事業」は平成 22 年 3 月より入居開始し、また、「中心市街地まちなか住宅取得支援事業」は継続して実施しているほか、現在建設中の「借上市営住宅整備事業」も着実に進捗しているものの、これらの事業による増加が当初想定していた目標に達していない状況である。一方で、新たな民間開発が予定されており、これらの民間開発を促す取組みにより目標達成は可能と見込まれることから、引き続き最大限の努力をしていく。

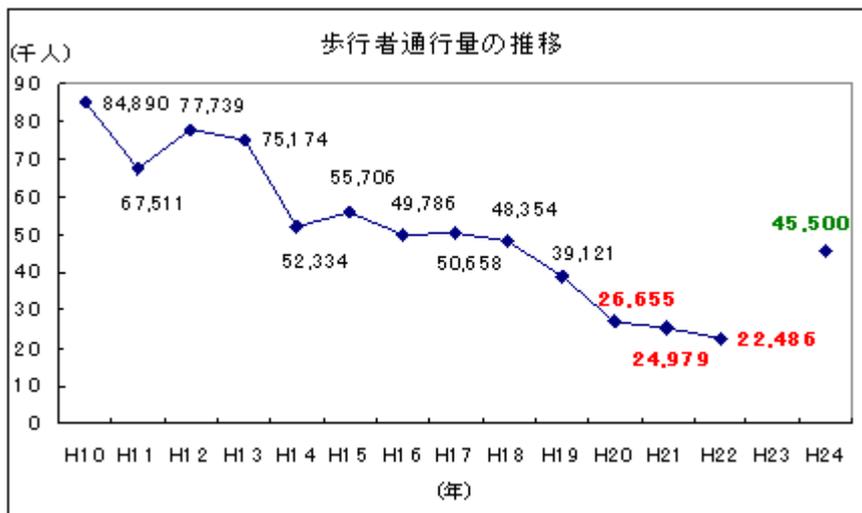
4 . 今後の対策

基本計画掲載事業を積極的に推進し事業効果の発現を期するとともに、歩行者通行量については、「はっち」と商店街との連携等に加え、中心市街地の空き店舗に出店する事業者に対して改装費の一部を支援する「中心商店街空き店舗・空き床解消事業」による集客力のある店舗立地を図る。さらには、中心市街地活性化協議会や(株)まちづくり八戸など民間事業者と連携を図りながら、中心市街地の新たな活性化に資する事業の実施を検討するなど、引き続き、目標達成に向け努力を行う。

・目標毎のフォローアップ結果「来街者を増やす」

「歩行者通行量」 目標設定の考え方 基本計画 P55～P63 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H19	39,121 人 (基準年値)
H20	26,655 人
H21	24,979 人
H22	22,486 人
H23	
H24	
H24	45,500 人 (目標値)

調査方法；歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

調査月；平成 22 年 10 月実施、12 月取りまとめ

調査主体；八戸商工会議所

調査対象；日曜日の表通りの 8 地点を通行する歩行者（自転車は対象外）

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・(仮称) 八戸市中心市街地地域観光交流施設整備事業 (八戸市)

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	市民主体の活動を気軽に始められる場所として、さらには、観光やビジネスの面でも新しいものを作り出すことができる場所として、中心市街地に賑わいを取り戻す複合拠点施設を整備する事業である。
事業効果又は進捗状況	当施設は、「はっち」として、平成 23 年 2 月 11 日に開館し、2～3 月には、ダンスや写真展、食文化の祭典など様々な事業を展開したところである。 これらの事業に加え、様々なソフト事業を実施し、新たな創造と交流の拠点として賑わいの創出を図っているところである。また、開館にあわせて、中心商店街では、はっちコラボプロジェクトとして、まちなかクリーン作戦やまちなかレシート抽選会など多彩なイベントを開催した。

・こみちづくり事業 (地権者等関係者の協議により決定(中活法に基づく特定会社を予定))

事業完了時期	【未】平成 22 年度
事業概要	低未利用地を活用してパティオ(広場)やテナントミックス店舗を整備し、合わせて近隣の商業施設とパサージュ(小径)で結ぶことにより回遊性を向上させ、一体となった魅力的な商業空間を形成

	する事業である。
事業効果又は進捗状況	<p>平成 20 年度に中心市街地テナントミックス調査事業を実施し、基本コンセプト、テナントミックス等の事業構想を検討したが、経済状況の悪化や関係者との調整の難航により、当初想定した計画を大幅に見直すこととなった。</p> <p>その後も経済情勢の改善も見られない状況が続いていることから、現在の商業環境を考慮し、少資金で商業集積を促進させるような事業コンセプトの再検討を継続し、今後、実現可能かつ、大きな事業効果の発現が期待できる事業計画を作成し、計画期間内の事業完了を目指す。</p>

・市日はちのへ楽市楽座事業（中心市街地の各商店街）

事業完了時期	【実施中】平成 20 年度から
事業概要	各商店街における市（いち）を周知媒体として相互に活用するなど、商店街の連携を深めるとともに、全国的にも珍しい町名の由来である市日を活用し、各商店街でイベントや売出しを開催する事業である。
事業効果又は進捗状況	<p>昨年度までは、三日町、六日町（月 3 回）、十三日町、十八日町、八日町、廿八日町で月に合計 8 回市日を開催している。また、平成 21 年度には、これらの街区で構成する「はちのへ市日サミット」を結成し、市日の開催を知らせるのぼりを共同使用して効果的な PR を行うなど、商店街全体の活性化に向け連携を強化している。</p> <p>今年度は、新たに十六日町において六の市にあわせて、市を開催するなど規模を拡大し、来街者のみならず商店街関係者からも好評を博しており、市日の開催が定着してきたところである。</p>

・はちのへホコテン事業（八戸中心商店街連絡協議会）

事業完了時期	【実施中】平成 15 年度から
事業概要	中心市街地のメインストリートを歩行者天国として市民に開放し、市民参加型イベントを定期的に行う事業である。
事業効果又は進捗状況	昨年度まで、5 月～10 月の第 3 日曜日に開催していた「はちのへホコテン」は、今年度から、5 月～10 月の最終日曜日に計 6 回開催しており、ステージイベントのほか、中心商店街の出店や市民の活動の場、各種団体の PR 活動等を実施し、来街者から好評を博している。

3 . 目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の新たな集客核である（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設は、工事着工に遅れは生じたものの 2 月に「はっち」として開館した。「こみちづくり事業」も早急な事業計画の見直しを行い、計画期間内の完了を目指す。

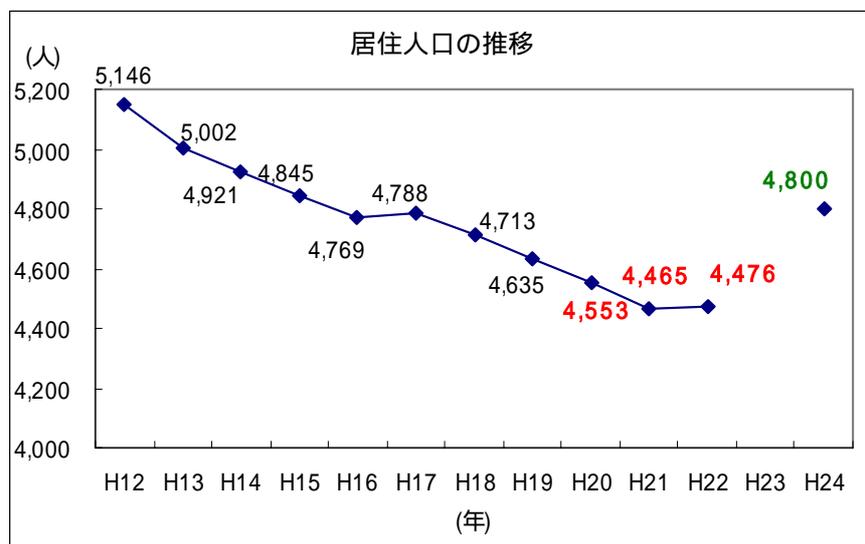
また、昨年度から実施した「はちのへホコテン事業」では、25,000人/日（平成22年度平均）の歩行者通行量が計測されるなど、ソフト事業を着実に実施していくことで、歩行者通行量のある程度の回復は期待できると考えられる。

しかし、経済状況の悪化等による歩行者通行量の減少に歯止めが掛からない状況であり、目標の達成が見込めないと予想されることから、「はっち」を拠点とした様々なソフト事業の充実により、来街者の増加を図るとともに、中心市街地の空き店舗に出店する事業者に対して改装費の一部を支援する中心商店街空き店舗・空き床解消事業により、集客力のある店舗立地を促進するなど、商店街の魅力向上に努め、歩行者通行量の増加を目指す。

・目標毎のフォローアップ結果「定住を促進する」

「居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P64～P66 参照

1 調査結果の推移



年	(単位)
H19	4,635人 (基準年値)
H20	4,553人
H21	4,465人
H22	4,476人
H23	
H24	
H24	4,800人 (目標値)

調査方法；中心市街地区域での住民基本台帳登録人口
 調査月；平成22年9月末時点調査、10月取りまとめ
 調査主体；八戸市
 調査対象；中心市街地区域に含まれる町内毎の人口の合計

2 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・借上市営住宅整備事業（八戸市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	民間主体が整備した住宅を市営住宅として借上げ、中心市街地の定住促進を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成22年7月に着工した借上市営住宅は、1階部分に託児所、診療所が入居し、1LDK20戸、2LDK30戸の合計50戸の計画で現在建設中であり、平成23年10月完成、平成24年1月から入居開始予定である。

・ 中心市街地まちなか住宅取得支援事業（八戸市）

事業完了時期	【実施中】平成 23 年度
事業概要	中心市街地内で住宅の取得等をした者に対して、費用の一部を負担することにより中心市街地の定住促進を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	事業の開始が 1 年遅れ、平成 21～23 年度の 3 箇年の事業として実施中。 初年度である平成 21 年度は、3 件の支援にとどまったものの、2 年目である平成 22 年度は、支援制度の周知が図られたことなどから、20 件支援し居住人口が 56 人増加している。今後も支援制度の広報に努め、支援の継続による居住人口の増加を目指す。

3 . 目標達成の見通し及び今後の対策

「分譲マンション新築事業」は、完成後順調に入居が進んでいるほか、平成 21 年度から継続して実施している「中心市街地まちなか住宅取得支援事業」の利用件数が増加するなど、居住人口の減少に歯止めが掛かったものの、現下の経済情勢により、これら事業による増加が当初想定していた目標に達していない状況である。一方で、新たな民間開発が予定されており、これらの民間開発を促す取組みにより目標達成は可能と見込まれることから、引き続き最大限の努力をしていく。